



Title	巻頭言
Author(s)	遠藤, 乾
Citation	年報 公共政策学, 8, 1
Issue Date	2014-05-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/59384
Type	bulletin (other)
File Information	ASSP8_001.pdf



[Instructions for use](#)

巻 頭 言

『年報公共政策学』は、公共政策に関わる論考を年1回公刊する媒体です。北海道大学に10年前創設された公共政策大学院を中心に編纂され、今年で8号を数えます。

基本となる問題意識は、実際の政策現場で生起しうる課題に学問がどう応えるかというものです。政治学、経済学、工学などは文系理系に跨り、それぞれに伝統のある学問領域ですが、政策課題はそうしたディシプリンを選びません。領域を横断する政策課題について、学問・文理融合的で、実務と研究を架橋するような考察を少しずつ蓄積する。それが本年報の目的です。

公共政策大学院も創設後約10年を経て、徐々に大学の風景の一部になじんできました。文理融合や研究・実務の架橋は一夜にしてならず、いまだに日々課題であり続けていますが、本号でも環境保全や地域再生といったテーマについて、そうした考察が加えられています。この創設時からの本来的な課題をこれからも追究してまいります。

さらに、この次の10年を見据え、北大公共政策大学院は、グローバル化とローカル化、国際と地域を結ぶ「グローカル化」を意識し始めています。というのも、現場の政策課題は、文理や実務・研究の別を分け隔てないのと同様に、地域・国際、ローカル・グローバルの区別を知らないからです。例えば、TPP（環太平洋経済連携協定）を例にとりましょう。それは、一方でいわゆる国際政治の舞台で繰り上げられる経済外交交渉であります。他方、それがもたらす影響は、言うまでもなく北海道のような地域に多大な影響を与えます。その2つを同時に視野に収めることが出来なければ、とても政策課題に応えることにはなりません。しかし、従来の研究はどこまでそのような架橋を意識できていたでしょうか。同様のことは、災害、原発、環境、観光、移民等多くのテーマについて言えましょう。

今年の年報は、伝統的な公共政策研究に加え、そうした新たな問題意識に触れるものが多いように思います。人の移動や市民社会の間の対話についての考察は、いずれも国境を越え、地域に根ざすものです。

本年報は今後も「動く標的」である政策課題を見つめ、それへの対応を心がけていく所存です。ご期待いただければ幸いです。

遠藤 乾

公共政策学研究センター長・教授

2014年2月